

第2回全体研究会

テーマ：「台湾政党再輪替後の兩岸関係前景」

日時：2016年4月22日（金）18：00～20：00

報告：劉国深（アモイ大学台湾研究院院長）

司会：高橋伸夫（慶應義塾大学）

場所：大学院校舎8階 東アジア研究所共同研究室1

使用言語：中国語（逐語通訳あり）

【概要】

本報告は蔡英文総統が就任直前に行われたため、非常にタイムリーな内容で学内外の関心を広く集めた。報告者はまず国民党が政権を失った理由について、馬総統の個人的要因、台湾内部の経済とくに所得の再配分の問題、ひまわり運動のような社会運動がもたらした打撃などを挙げて説明し、国民党の大陸政策がその主因ではないとしている。兩岸関係の安定と平和と発展は、一般民衆の利益となり、国際社会にも評価されている。また、国民党が政権を執った8年間、兩岸関係が安定を保つことができたのは、「九二年コンセンサス」（九二共識）に対する尊重があったと指摘している。

民進党政権の今後について、報告者によれば長期化する可能性が低い。その理由は、今回は社会運動の追い風があつてからの当選であり、島内の経済格差問題や社会の需要を満たすのは決して簡単ではないし、大陸との経済連携なしにはできないことであるからだという。そして今後の兩岸関係の展望は、民進党が大陸側と新しいコンセンサスを創出できるかどうかに関わっていると指摘する。

質疑応答では、「九二共識」に取って代わり、「九二諒解」が兩岸に受け入れられる可能性の議論や、「九二共識」に対する蔡英文の認識についての分析がなされ、さらに大陸側が望むような日台関係とは何か、大陸に求める役割や政治哲学とは何かなどが話された。